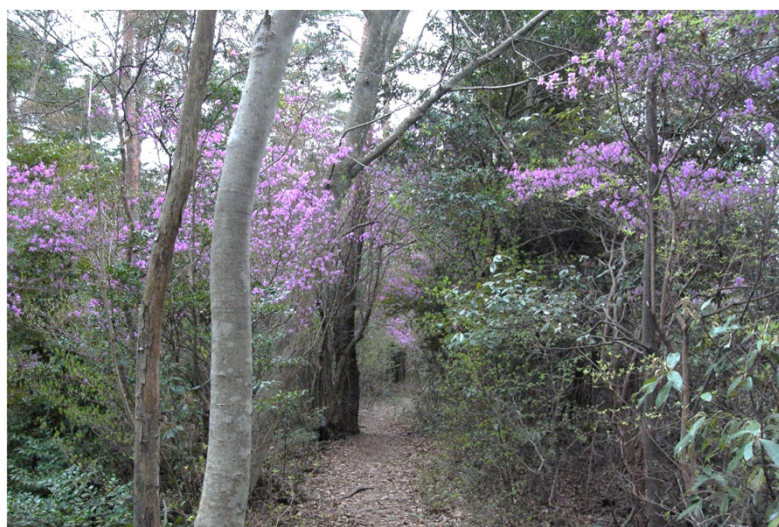




## 生態系への影響が懸念される大型哺乳類の分布拡大 身近な箕面の里山に何が起きているのでしょうか？



コバノミツバツツジ

かつては農業や日々の生活のために人の手が入っていた箕面の里山。経済的な価値が減少し放置された里山では、近年、シカやイノシシなど大型哺乳類の個体数が増加し、森林の下層植生の衰退が進むとともに、身近な植物や生き物が減少しています。

シカによる食害で、植物の多様性の低下や植生の衰退など、森林生態系に大きな影響を与えているだけではなく、土壌流出による水害や土砂災害の危険性が高まることが危惧されています。

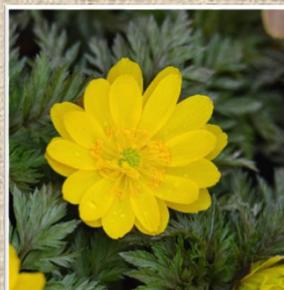
山麓部の竹林では、まったくタケノコが採れなくなったなど、イノシシの食害による被害が増えています。

みどりのまちづくりは箕面の魅力のひとつです。持続可能な活用のためには、豊かな自然環境を保全し、人とのつながりを理解することが大切です。冬は山歩きに適した季節です。箕面の山に親しみましょう！

## 里山の早春を彩る黄色い花たち

種子植物は種を作って次世代に命をつなぎます。まだ花も少ない冬枯れの時期に、いち早く咲かせる花たちがあります。この頃に咲く花は黄色が多いように感じますが、何か意味があるのでしょうか？

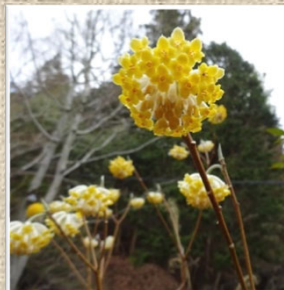
花粉が運ばれる方法はいろいろありますが、昆虫に花粉を運んでもらう植物も多くあります。黄色が早春に活動する虫たちにとって魅力的だとすれば、植物が子孫を残すための生存戦略かもしれないですね。



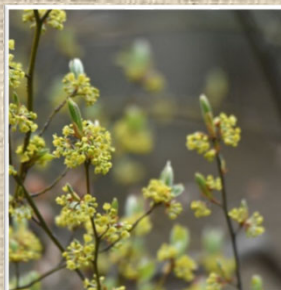
フクジュソウ



ロウバイ



ミツマタ



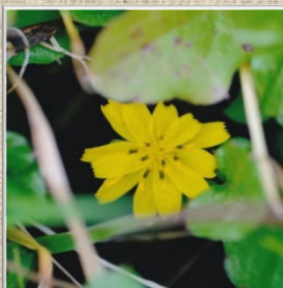
クロモジ



キブシ



サンシュユ



コオニタビラコ



キツネノボタン



アブラナ



カンサイタンポポ



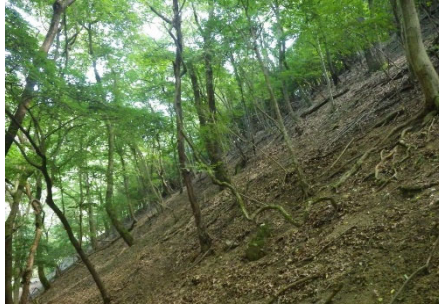
## シカの生息状況と危惧される生態系の劣化

1980年頃からニホンジカの生息数は全国的に拡大し、2017年度で300万頭以上といわれており、農林業被害だけでなく、森林生態系にも大きな影響を与えています。

箕面の森も例外ではなく、植物の多様性の低下(シカが嫌いな植物の繁茂と希少植物の減少・消失)や他の植物の生息環境への影響(茂みを好む鳥や昆虫の減少など)に加えて、下層植生が衰退することにより土壌の流出が進み、水害や土砂災害の危険性が高まることが危惧されています。



シカが少ない森



シカが多い森 ※下層植生が衰退

北摂地域104ヶ所でのシカ糞調査から、能勢・箕面・高槻の3地域でのシカ生息数は3,500~6,300頭程度と推定されています。

箕面では、新たに2014年から国有林での捕獲を開始した結果、国有林内では減少しましたが、周辺に高密度地域が発生し、箕面市域全体では微減にとどまっています。

(推定頭数 約1,000頭⇒約800頭)

シカの生息密度と農業被害や下層植生の衰退度の関係では、10頭/km<sup>2</sup>程度を上回ると、著しく被害が増加することが確認されています。

シカが減少しても、植生の回復には長い年月がかかります。森林の再生のためには、早期に、個体数を削減することが喫緊の課題となっています。



オヶ原池の堰堤 2005年10月



→ 2020年10月 ※数年前から裸地化

森の写真: 大阪府立生物多様性センター提供

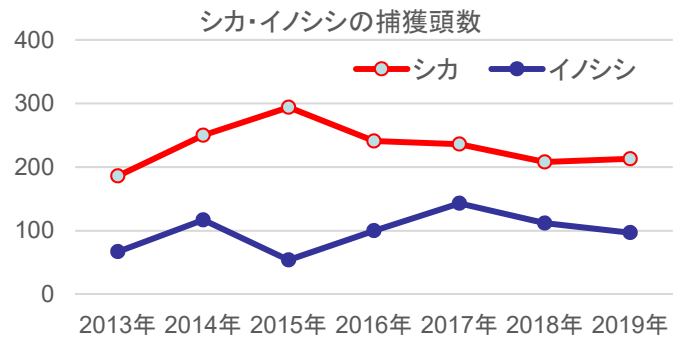
森林被害や農業被害に加えて、シカと自動車との衝突事故や住宅地への侵入なども発生しています。モニタリング調査を行いながら、個体数の削減のために、箱罠やくくり罠などの設置の他、銃猟も行っています。



シカと車の衝突多発(止々呂美)



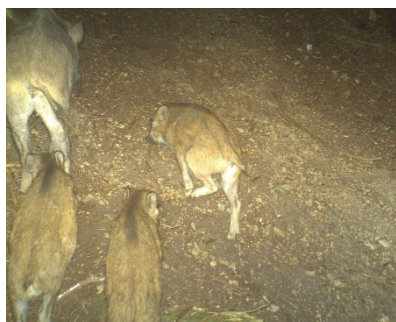
住宅地に侵入したシカ



## 野生動物への餌付けになるようなことは やめましょう！

人に慣れたイノシシが人身被害を引き起こすことがあります。イノシシの子供(ウリ坊)でも、エサは絶対に与えないでください。野生動物による人や生活被害の多くは、人によるエサやりが原因です。

野生動物は、本来厳しい自然環境の中で自らエサを得て暮らしています。人がエサを与えて、簡単にエサを得る方法を学習させると、人の食べ物の味を覚えて依存するようになります。人を恐れなくなり、栄養十分なエサを食べて繁殖力が上がり生息数が増えると、様々な被害が発生します。



自動撮影カメラに写ったイノシシ



滝道の施設に出現したイノシシ

また、意図的にエサを与えてなくても、知らないうちに「餌付け」を行っている場合があります。

- ・人家や農地周辺に野菜ゴミや生ごみなど、エサとなるもの置かない、食べられる状態にしないようにしましょう。

- ・柵の設置が有効ですが、周辺の山林(耕作放棄地などを含めて)の藪を刈り払うことで、田畑の見通しをよくすることも効果があります。

人と野生動物とは一定の距離を保つように注意しましょう。



## 2月28日(日)「こもれびの森」の森づくり活動にご協力をお願いします。

### 台風で被災した「こもれびの森」を再生するために植樹活動を行います！

シカによる食害から植生を守るためのシカ害防止柵を設置しています。柵の中に入り、2020年3月に植樹したイロハモミジの間に、コバノミツバツツジ50本を植樹します。また、比較的平坦な作業道沿いで、箕面市が「宝くじ桜」事業で寄贈を受けたヤマザクラ50本の植樹を行います。

B-9ポイント周辺では、伐倒したままの倒木があり見苦しいので、玉切りして、市民の憩いの場となるように整備を行う予定です。

日時：2021年2月28日(日) 10:00～14:00ごろ ※雨天中止

集合：こもれびの森 緊急ポイントB-9地点 ※事前予約必要

※新型コロナウイルスの拡大の影響により、変更の可能性があります。

みのお山麓保全委員会のホームページ(山なみネット)でご確認をお願いします。

みどりのまちづくりが魅力の一つである箕面では豊かな自然環境を保全することが大切です。

森林が持つ持続可能な防災・減災機能を引き出し、市民に憩いの場を提供する機能を高めるとともに、土砂災害の危険から守る機能の向上が期待されています。

森が再生するまでには長い年月がかかりますが、市民が中心となった森づくりの活動にご協力をお願いします。



緊急ポイントB-9地点



イロハモミジの植樹

## 箕面の山の歴史・文化遺産「八天の石蔵」をご存知でしょうか？

昭和41年(1966年)、勝尾寺旧境内榜示(ぼうじ)八天石蔵(はってんいしくら)は、国の史跡に指定され、出土品である青銅造四天王・四明王像などは、国の重要文化財に指定されました。

八天石蔵は、鎌倉時代1228年に生じた勝尾寺と山麓村々との寺領争論で発せられた勝尾寺文書の中に記録があり、勝尾寺の寺領を表すものです。寺領と山麓村々との境8箇所に、方形壇(基壇、中壇、上壇)を設け、その中央に陶製外容器に収めた青銅製仏像(四天王及び四明王)を埋納されていました。石蔵はその頃に作られたものと推定されており、他に類例のない貴重な遺跡です。



多聞天 広目天 増長天 持国天



金剛夜叉明王 大威徳明王 軍荼利明王 降三世明王

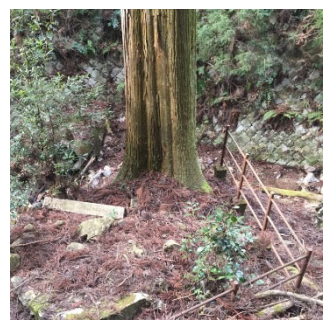
※出土した信楽焼の陶製外容器と青銅製仏像は、勝尾寺宝物館(非公開)に収蔵されています。

各石蔵には管理団体(箕面市)が設置した石標が目印として置かれていますが、山中のために、管理の手が届かず、長く放置されてきました。

9月13日に、箕面の山パトロール隊と箕面の森のきこり隊が、自然研究路5号線から増長天の石蔵への道を整備しました。その後、10月28日に、箕面市郷土資料館が増長天の石標の修復を行いました。

今後、箕面市が中心となって文化財としての整備を進めますが、簡易な整備や見回り、広報など、市民が出来ることを行い、一定の役割分担をしたいと考えています。

山間・山麓部にある歴史・文化遺産に注目して理解を深めて保全しましょう！



倒れていた石標



修復された石標



## 「みのお山麓保全活動助成金」による活動助成 2月期の募集

「みのお山麓保全活動助成金」は、四季折々に美しい箕面のみどり豊かな山麓を守り・育て・活かすために、NPO法人みのお山麓保全委員会が箕面市から補助金を受けて、山林所有者や市民の活動に助成する仕組みです。山麓保全委員会は、市民や山林所有者の活動支援や「山麓保全活動助成金」を活用した活動の相談、助成申請の受付などを行っています。お気軽に事務局までご連絡ください。

- 申請受付期間: 2月1日(月)～28日(日) ■対象となる事業期間: 2021年4月1日～2022年3月31日  
 ■助成金額: 1件あたり25万円以内

助成は箕面市の2021年度の補助金予算の範囲内で行います。

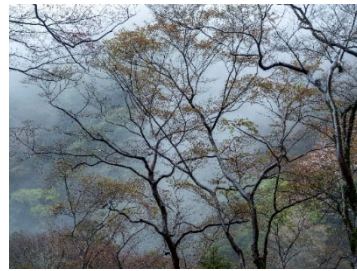
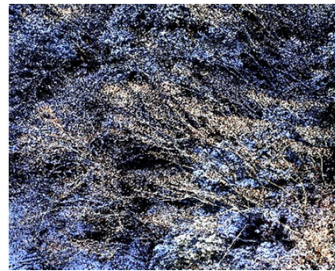
このため、全体の応募件数によっては、助成の要件を満たす団体・活動であっても必ずしも助成の対象とならないことがあります。  
 また、助成金の額は助成の対象となる活動にかかる経費であっても、必ずしも申請 どのりの額を助成できるものではないことをご承知ください。



### ■山林所有者への助成

箕面市環境保全条例により「自然緑地」として指定された山林において、その所有者が里山の管理を行う場合の助成金額は、土地登記簿面積1㎡あたり25円と計算します。(上限25万円)

助成申請のためには、**自然緑地等指定同意書**を提出していただくが必要です。



### 2020年度「みのお山麓保全活動助成金」の助成実績

- 山林所有者(箕面市環境保全条例による自然緑地指定同意書提出者)による活動を助成  
 件数: 82件、筆数: 225筆、面積: 416,016㎡、金額: 8,256,700円、山林整備サポート要請件数: 49件  
 新規の自然緑地指定同意者: 3件、自然緑地の同意面積: 263,309㎡(助成対象外の同意面積: 242,315㎡を含む)
- 市民団体等による活動を助成  
 件数: 16件、金額: 2,100,900円、新規の団体: 3件

活動団体名	保全活動名	助成金額
1.箕面の山パトロール隊	山地美化活動を中心とした箕面の山のパトロール活動	¥250,000
2.箕面だんだんクラブ	箕面市体験学習の森の整備及び間伐材の有効活用	¥249,000
3.しおんじ山の会	しおんじ山の再生・活用・整備活動	¥246,000
4.杜の会	民有林の整備活動	¥57,000
5.とんど山桜園の会	とんど山桜園の維持管理活動と里山文化の復活継承	¥74,000
6.外院の杜クラブ	山の幸作り、キノコ栽培	¥20,000
7.みのおエコクラブ	農と緑のふれあい体験学習広場の運営	¥191,000
8.みのお森のふれあい広場運営委員会	山麓保全活動等の情報発信と関連イベントの実施	¥135,000
9.箕面生物多様性会議	オケ原池周辺の生物多様性の復活推進	¥135,000
10.箕面の森のきこり隊	箕面里山の保全活動と人材育成	¥56,000
11.箕面観光ボランティアクラブ	教学の森での樹名板設置	¥180,000
12.箕面ナチュラルリストクラブ	オケ原池堰堤の保全	¥148,500
13.川端 青	箕面川の生物相調査	¥82,400
14.北摂はじめのいっぽ	教学の森ハイキング道の整備及びトレランマナーの啓発	¥40,000
15.箕面マウンテンバイク友の会	マウンテンバイクのモラルやマナー向上、山の清掃及び整備	¥132,000
16.山麓学習協議会	山麓自然環境学習の実施のための講師養成講座の開催	¥105,000

NPO法人 みのお山麓保全委員会

〒562-0001箕面市箕面6-3-1 みのおサンプラザ1号館2階211号室

電話&FAX: 072-724-3615 携帯電話: 090-1133-3615

メール: yama-nami@yama-nami.net

ホームページ: www.yama-nami.net(検索: 山なみネット)

\* 箕面の山麓保全情報のポータルサイト「みのお山なみネット」

